

官報

號外

昭和八年一月二十九日

○第六十四回衆議院議事速記録第八號

昭和八年一月二十八日(土曜日)

午後一時十七分開議

議事日程 第七號

昭和八年一月二十八日

午後一時開議

第一 昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三 帝國鐵道會計法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第五 六大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案(大養健君外四十四名提出) 第一讀會

第六 少年教護法案(荒川五郎君外十六名提出) 第一讀會

第七 傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル法律案(江藤源九郎君外三名提出) 第一讀會

第八 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第九 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外一名提出) 第一讀會

第十一 身元保證ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十二 利息制限法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十三 嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十四 計量士法案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十五 度量衡法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十六 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(丸山浪彌君外十二名提出) 第一讀會

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一去二十六日政府ヨリ昭和六年四月一日ヨリ同七年三月三十一日ニ至ル朝鮮總督府

所屬、臺灣總督府所屬及樺太廳所屬官有財産増減異動報告ヲ受領セリ

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案

提出者

安達 謙藏君

井上 剛一君

伊禮 肇君

民法中改正法律案

提出者

安達 謙藏君

井上 剛一君

調停申立事件ノ手續費用救助ニ關スル法律案

提出者

伊禮 肇君

町村役場費臨時國庫補助法案

提出者

安達 謙藏君

福田 虎龜君

地租ノ免除ニ關スル法律案

提出者

安達 謙藏君

由谷 義治君

商法施行法中改正法律案

提出者

安達 謙藏君

井上 剛一君

大正十五年法律第二十四號中改正法律案(地方稅ニ關スル件)

提出者

伊禮 肇君

中村 繼男君

野田文一郎君

中川 觀秀君

百貨店法案

提出者

野田文一郎君

中村 繼男君

中川 觀秀君

利息制限法中改正法律案

提出者

安達 謙藏君

井上 剛一君

伊禮 肇君

間接國稅犯則者處分法中改正法律案

提出者

安達 謙藏君

伊禮 肇君

刑法中改正法律案

提出者

一松 定吉君

武富 濟君

西脇 晉君

手代木隆吉君

濱野徹太郎君

谷原 公君

中山 福藏君

內藤 正剛君

刑事訴訟法中改正法律案

提出者

一松 定吉君

武富 濟君

濱野徹太郎君

手代木隆吉君

西脇 晉君

谷原 公君

內藤 正剛君

家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案

提出者

宮川 一貫君

石川 又八君

田口 文次君

八田 宗吉君

田島勝太郎君

池田 秀雄君

古物商取締法中改正法律案

提出者

山本 芳治君

岸田 正記君

出版權法案

提出者

原 夫次郎君 加藤 知正君
山 枏 儀重君 星島 二郎君
増田 義一君 工藤 鐵雄君
山下 谷次君

(以上二月二十六日提出)

日華間定期航空開始ニ關スル建議案

提出者

永田 良吉君 宮脇 長吉君
上原平太郎君 原口初太郎君
原 惣兵衛君 土倉 宗明君
江藤源九郎君 土井 權大君
内野辰次郎君 八角 三郎君
中島知久平君

民間飛行士優遇ニ關スル建議案

提出者

永田 良吉君 上原平太郎君
原口初太郎君 原 惣兵衛君
土倉 宗明君 江藤源九郎君
宮脇 長吉君 土井 權大君
内野辰次郎君 八角 三郎君
中島知久平君

特殊銀行延滞利子制限ニ關スル建議案

提出者

菅野善右衛門君

(以上二月二十六日提出)

大垣金澤間鐵道敷設速成ニ關スル建議案

提出者

猪野毛利榮君 三上 英雄君
小林 鎭君

越美線速成ニ關スル建議案

提出者

猪野毛利榮君 三上 英雄君
小林 鎭君
小濱與名田間鐵道敷設速成ニ關スル建議案

提出者

猪野毛利榮君 三上 英雄君
小林 鎭君

上野敦賀間急行列車運轉ニ關スル建議案

提出者

猪野毛利榮君 三上 英雄君
小林 鎭君
米原今庄間鐵道電化速成ニ關スル建議案

提出者

猪野毛利榮君 三上 英雄君
小林 鎭君

羽太塚竹田間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

樋口 典常君

大柚神社創建ニ關スル建議案

提出者

樋口 典常君 木村 正義君

倉敷川改修ニ關スル建議案

提出者

星島 二郎君

府縣社以下ノ神社ニ供進スル神饌幣帛料

提出者

松田 正一君 池田 敬八君
濱田 國松君 川崎 克君
加藤久米四郎君 後藤 脩君

(以上二月二十七日提出)

國務院創設ニ關スル決議案

提出者

野田文一郎君 小山 谷藏君
加藤 鯛一君 中村 繼男君
伊禮 肇君

(以上二月二十六日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ

如シ

河野通治贈位奏請ニ關スル質問主意書

提出者

武知 勇記君

(以上二月二十五日提出)

滿洲政策ニ關スル質問主意書

提出者

丸山 浪彌君

(以上二月二十六日提出)

一去二十六日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ

如シ

第二部選出

豫算委員 兒玉右二君(庄晋太郎君補

闕)

一去二十六日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル

常任委員左ノ如シ

第八部選出豫算委員 川崎 克君

一去二十六日議長ニ於テ選定シタル委員左

ノ如シ

造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關

スル法律案(政府提出)外二件委員

金光 庸夫君 鈴木 英雄君
木暮武太夫君 堀江正二郎君
兼田 秀雄君 壽原英太郎君
平野桑四郎君 武田德三郎君

加藤鑠五郎君

堀川 義哉君

鷺野米太郎君

青田 勝晴君

橫山 泰造君

森田 福市君

豐田 牧君

水久保甚作君

高見 之通君

田村 實君

櫻井兵五郎君

前田房之助君

松本 忠雄君

池田 敬八君

矢野庄太郎君

內藤 正剛君

中村三之丞君

中川 觀秀君

小山 谷藏君

秦 豐助君

中島 守利君

八田 宗吉君

三井 德寶君

鈴木 義隆君

丹下茂十郎君

井阪 豐光君

原 惣兵衛君

大本貞太郎君

寺田 市正君

田邊 七六君

綾部健太郎君

橫山金太郎君

山本 厚三君

清水德太郎君

林 平馬君

小池 仁郎君

井上 剛一君

第八部選出

豫算委員

岡田喜久治君(川崎克君

補闕)

一昨二十七日常任委員理事補闕選舉ノ結果

左ノ如シ

請願委員

理事 岡田伊太郎君 (委員大崎清作君)

本日理事辭任ニ付其ノ補闕)

一昨二十七日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

造幣局工場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案(政府提出)外二件委員

委員長 金光 庸夫君

理事

木暮武太夫君 堀川 美哉君

鷲野米太郎君 池田 敬八君

矢野庄太郎君 中川 觀秀君

鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)委員

委員長 秦 豐助君

理事

原 惣兵衛君 寺田 市正君

清水徳太郎君

○議長(秋田清君) 諸君、是ヨリ會議ヲ開

キマス、土屋清三郎君ヨリ議事進行ニ關スル發言ノ通告ガアリマス、一昨二十六日ノ會議ニ於ケル發言ニ關スル件トノコトデアリマス、此場合之ヲ許可致シマス——土屋清三郎君

(土屋清三郎君登壇)

○土屋清三郎君 一昨日私ノ議長ニ對スル

發言ノ中ニ、穩カナラザル言葉ガアルカラ

之ヲ取消スヤウニト、青木君カラ議長ヲ通ジテ私ニ對シテ御要求デアリマシタ、其際速記録ヲ調べタ上ニ御答ヲスルト申上ゲ

テ置キマシタガ、本日速記録ヲ手ニ致シマシタカラ、之ニ依テ議長ノ仰セノ通り明

確ニ御答ヲ致シマス、青木君ノ御指摘ニナラレマシタ點ハ二ツアルヤウニ思ハレル、

一ツハ議長ガ籍ヲ政友會ニ置イテ、政友會ト——シテ此邊ノ事情ヲ承知シテ居ラル、

ト云フ、其中ノ政友會ト——ト云フコトガイケナイト、斯ウ云フノデアリマス、議

長ハ現ニ籍ヲ政友會ニ置キ、政友會ノ樞機ニ參與シ得ル重要ナル地位ニ在ル人デアリ

マス、隨テ私ノ言葉ノ中ニ、——シテト云フコトガ穩デナイト云フコトデアラナラバ、

私ノ申上ゲタ意味ニ於テ何等ノ相違ガアリマセヌカラ、是ハ青木君ノ御要求ノ通り取

消シマス、次ニ議長ニ對シテ——ノ態度デアルト言ハレタ、ソレガ議長ヲ侮辱シ

タト、斯ウ云フノデアアル、青木君ハ御承知ガナイデアリマセウガ、一昨々日加藤君ノ

議事進行ニ關スル發言ノ問題ガ起リマシタ後ニ於テ、吾々ノ同志ハ議長ヲ議長室ニ訪

ネテ、議長ニ注意ヲ促シタノデアリマス、然ルニ之ニ對スル議長ノ態度ハドウデアアル

カト云フト、議長ノ椅子ニ傲然ト構ヘテ、

法律論ナラバ法律論デ來イト、斯ウ云フ態

度デアタ、何處ニ和衷協同國事ヲ議スル立法院ノ議長ノ態度ガアリマスカ……

(何ヲ言フテ居ルノダ)ト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○議長(秋田清君) 靜肅ニ……

○土屋清三郎君(續) ノミナラズ一昨日ハ

副議長ヲ通ジテ、吾々ニ對シテ圓滿ナル解決ヲ求メテ置キナガラ、其事ガ自分ノ意ニ

滿タズト見ルヤ、マダ副議長ガ交渉ノ最中ニ於テ、吾々同志ガ協議ノ最中ニ於テ、拔

打的ニ自分ニ有利ナル聲明書ヲ發表シタト云フコトハ、何タル態度デアリマスカ(何

ダ何ダ)ト呼フ者アリ)何處ニ議長トシテ眞面目ナ態度ガアリマスカ、是ガ私ガ——

ノ態度デアルト難シタ所以デアリマス、併ナガラ私ノ目的ハ、議長ノ不當ナル態度

ヲ改メテ(不當トハ何ダ)ト呼フ者アリ)嚴正公平ナル態度ヲ執ラシメ、議會ノ權威ヲ

彌ガ上ニ高カラシムルニアルノデアリマス、隨テ私ノ演説ノ中ノ片言隻語ノ如キハ

問題デハアリマセヌ、青木君ハ此言葉ガ議長ニ對スル……(何ヲ言フノダ)「取消セ」

ト呼フ者アリ)議長ニ對スル……

○議長(秋田清君) 靜肅ニ……

○土屋清三郎君(續) ——云々ノ言葉

ガ、諸君ノ神經ヲ刺戟シ、議長ノ神經ヲ惱

シタト云フコトデアレバ、私ノ大目的ガ議長ノ反省ヲ求メルニアル以上ハ、此——

ノ態度云々ノ言葉モ、青木君ノ御希望ノ通り綺麗ニ之ヲ取消シマス(拍手)

(ソナナ取消ガアルノカ)今ノ言葉ガ穩カデナイトト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○議長(秋田清君) 靜肅ニ——靜肅ニ——

是ヨリ日程ニ入りマス、日程第一、昭和七年法律第一號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開

キマス——大藏政務次官堀切善兵衛君

第一 昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲

公債發行ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

帝國鐵道會計法中改正法律案

帝國鐵道會計法中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

帝國鐵道ノ事業ニ關聯シ經營スル自動車交通事業ノ資本及其ノ歲入歳出ハ本會計ノ所屬トス

第二條第一項中「帝國鐵道資本」ヲ「資本」ニ、「鐵道益金」ヲ「益金」ニ、同條第二項中「帝國鐵道ノ建設費、改良費」ヲ「鐵道建設費、鐵道改良費、自動車線設備費」ニ改ム

第三條第一項第三號中「鐵道又ハ軌道」ヲ

「鐵道、軌道又ハ自動車運輸事業」ニ改ム

第五條中「鐵道益金繰入額」ヲ「益金繰入

額」ニ、「建設費、改良費」ヲ「鐵道建設費、

鐵道改良費、自動車線設備費」ニ改ム

第七條第二項中「鐵道營業上」ヲ「營業上」

ニ改ム

附則

本法ハ昭和八年度ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員堀切善兵衛君登壇)

○政府委員(堀切善兵衛君) 只今議題トナ

リマシタ昭和七年法律第一號中改正法律案

提出ノ理由ヲ説明致シマス、諸君、滿洲事

件ニ關スル經費ニ付キマシテハ、去ル第六

十一回及第六十二回帝國議會ニ於テ、其財

源ニ充ツル爲公債ヲ發行スルコトヲ得ル法

律案ノ成立ヲ見、之ニ依リ本年一月マデノ

經費ヲ支辨シ得ル次第デアリマスルガ、其

後ノ本年度分並ニ昭和八年度分ノ經費トシ

テ、更ニ約二億三千萬圓ヲ必要トスルノ

デアリマス、而シテ今日ノ財政狀況並ニ本

經費ノ性質ニ鑑ミ、從來ノ如ク之ヲ公債財

源ニ依ルコトト致シマシタ爲メ、現行滿洲

事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關ス

ル法律案中ノ發行限度ヲ改正増加スルノ必要

ガアリマスルノデ、本法律案ヲ提出致シタ

ノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與
ヘラレンコトヲ希望スル次第デアリマ
ス(拍手)

○議長(秋田清君) 本案ニ對シテ質疑ノ通

告ハアリマセヌ、日程第二、右議案ノ審査

ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

ノ選舉

○上田孝吉君 本案ハ政府提出、造幣局工

場及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案

外二件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望

ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議

アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三、

帝國鐵道會計法中改正法律案ノ第一讀會ヲ

開キマス、政府ノ趣旨辯明ヲ求メマス

第三 帝國鐵道會計法中改正法律

案(政府提出) 第一讀會

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中左ノ通改正ス

「二億六千萬圓」ヲ「四億九千九百萬圓」ニ改

ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員堀切善兵衛君登壇)

○政府委員(堀切善兵衛君) 只今議題トナ

リマシタ帝國鐵道會計法中改正法律案ニ付

キマシテ、提出ノ理由ヲ説明致シマス、自

動車交通事業ハ、國家交通網ノ整備ニ有效

且ツ經濟的ナルコトハ勿論、地方ノ開發、

産業ノ助長ニ資スル所ガ大ナルモノアリト

考ヘマシタノデ、新クニ昭和八年度以降、

帝國鐵道ノ事業ニ關聯スル自動車交通事業ノ

促進ヲ圖ルコト、致シタノデアリマス、而

シテ本事業ノ經濟モ亦帝國鐵道會計ニ屬セ

シムルコトヲ適當ト認メマスノデ、本法律

案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議

御協賛アラント希望致シマス

○議長(秋田清君) 本案ニ對シテ質疑ノ通

告ハアリマセヌ、日程第四、右議案ノ審査

ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員

ノ選舉

○上田孝吉君 本案ハ政府提出鐵道敷設法

中改正法律案ノ委員ニ併セ付託セラレンコ

トヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議

アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、

仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第五、六大

都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案ノ第一

讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ求メ

マス——提出者本田義成君

第五 六大都市ニ特別市制實施ニ關ス

ル法律案(犬養健君外四十四名提出)

第一讀會

六大都市ニ特別市制實施ニ關スル法律案

第一條 本法ニ於テ市ト稱スルハ東京市、

京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名

古屋市ヲ謂フ

第二條 市ハ從來ノ區域ニ依リ之ヲ府縣

ノ區域外トス

第三條 市ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法

令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來

法令又ハ慣例ニ依リ府縣若ハ市ニ屬ス

ル事務及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬ス

ル事務ヲ處理ス

第四條 市ハ內務大臣之ヲ監督ス

第五條 市制其ノ他ノ法令又ハ慣例ニ依

リ從來地方長官(東京市ニ在リテハ警

視總監ヲ含ム)並府縣參事會ノ權限ニ

屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主

務大臣又ハ市長之ヲ行フ

第六條 市制其ノ他ノ法令ニ依リ從來府

縣參事會ニ訴願シ得ヘキ事項ハ直ニ之ヲ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 市ハ市制其ノ他ノ法令ニ依ルモ

ノ外從來ノ府縣稅及賦金ノ例ニ依リ市稅及賦金ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八條 市ハ府縣ト其ノ事務ノ一部ヲ共

同處理スル爲規約ヲ定メ內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣市組合ヲ設クルコトヲ得

府縣市組合ハ法人トス

府縣市組合ノ事務ハ內務大臣ノ指定シ

タル府縣知事又ハ市長之ヲ管理ス府縣市組合ニ關シテハ府縣制第二百二十六條

ノ三第一項及第二百二十六條ノ四乃至第

百二十六條ノ七ノ規定ヲ準用ス

第九條 市制第七十條第一項ノ懲戒審

查會ノ組織ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

附則

第十條 本法ニ規定スルモノノ外總テ市

制ノ定ムル所ニ依ル

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ爲府縣ニ屬スル財産、營造物

官報號外 昭和八年一月二十九日 參議院議事速記第八號 少年教護法案 第一讀會

(本田義成君登壇)

○本田義成君 特別市制ノ法律案提出ニ關

シマシテ、簡單ニ趣意ヲ申上ゲタイト思フ

ノデアリマス、諸君、六大都市ハ府縣ノ監

督ヲ脱シテ、獨立ノ財政ト行政トヲ確立シ

タイト云フノガ本旨ニナッテ居リマス、此六

大都市ノ中デモ、東京ハ既ニ特別市制ヲ施

行スルト云フノデ、本年ノ議會ニ是非提案

シテ戴キタイコトヲ政府ニ迫ッテ居ルノデ

ゴザイマス、元來此問題ハ時代ノ進運ニ伴

ウテ、此六大都市ハ府縣ノ監督ヲ免レテ、

獨立ノ行政ト財政ヲ行フト云フコトハ、私

ハ當然ノコト、信ジテ居ルノデゴザイマ

ス、然ルニ政府ハ何故ニ此問題ニ付テ、年々

歳々各都市ガ請願シテ居ルニモ拘ラズ、恬

トシテ此點ニ付テ考慮ヲシナイコトハ、洵

ニ私ハ其當ヲ得ナイト信ジテ居ルノデアリ

マス、最早東京ハ既ニ世界ノ第二ノ地位ニ

位スル程ノ大都市ニナリマシテ、又大阪モ

ス、私ハ詳シク之ヲ申上ゲタイノデゴザイ

マスルガ、東京ハ都制案ノ問題ニ付テ非常

ニ研究シテ居リマシテ、實ハ非常ニ都制案

ノ事デ毎日內務省ニ迫ッテ居ルヤウナ譯デ、

此六大都市ノ特別市制ハ、只今初メテ前

說明セイト言ハレマシタノデスガ、實ハ十

分ニ研究シテ居リマセス、ケレドモ吾々固

ヨリ此問題ハ一日モ早ク是非トモ此機會ニ

實行スルヤウニ、政府ニドウゾ御考慮ヲ願

ヒタイト云フコトヲ御願スル次第デアリマ

ス、簡單ニ此場合ニ、一ツ私ハ重要ナル點

ヲ二三申上ゲタイト思ヒマス、此六大都市

ノ府縣ノ監督ヲ脱シタイト云フノハ、實ハ

自治體ノ本領ヲ確立サセルト云フノガ目

的ナノデアリマス、自治ノ發展ヲ期スル

ト云フノガ原則ニナッテ居ルノデアアル、大

都市ガ二重ノ監督ヲ受ケテ居ッテハ、實ニ

非常ナ、自治ノ發展向上上ニ不便ガア

ル、是ハ二重監督ヲ脱シテ、一日モ早

フコトハ、現代ノ時代ノ要求デアアル、ドウ

シテモ此機會ニ一ツ確立スルヤウニシテ戴

キタイト云フノガ原則デアリマスルカラ、ド

ウゾ此意味ニ於テ速ニ、一日モ早ク實行ノ

出來ルヤウニ希望シテ、此壇ヲ去ル次第デ

アリマス(拍手)

○上田孝吉君 本案ハ議長指名十八名ノ委

員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議

アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、

仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第六、

少年教護法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出

者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者、荒川

五郎君

第六 少年教護法案(荒川五郎君外六

十六名提出)

第一讀會

少年教護法案

少年教護法

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十四

歳ニ滿タザル者ニシテ不良行爲ヲ爲シ

又ハ不良行爲ヲ爲ス虞アルモノヲ謂フ

少年法ニ依リ保護處分ノ實施セラレザ

ル地區ニ於テハ前項ノ年齢ヲ十八歳ト

第八條第一項第二號ノ場合ニ於テハ其ノ年齢ヲ十八歳未満トス

第二條 北海道及府縣ハ少年教護院ヲ設置スベシ

前項少年教護院ノ數及收容定員ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

國ハ必要ノ場所ニ少年教護院ヲ設置ス
國立教護院ニハ教護事務ニ從事スル職員養成所ヲ附設ス

第三條 少年教護院ニ於ケル教護ノ本旨、教科、設備及職員ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 道府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ少年ノ保護方法ヲ鑑別スル爲少年鑑別所ヲ設置スベシ但シ土地ノ狀況ニ依リ少年教護院ニ附設スルコトヲ得

國ハ必要ノ場所ニ少年鑑別所ヲ設置ス
少年鑑別所ニハ少年一時保護所ヲ附設スベシ

第五條 道府縣立教護院及道府縣立鑑別所ハ地方長官、國立教護院及國立鑑別所ハ内務大臣之ヲ管理ス

第六條 道府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ少年保護ノ爲少年保護員ヲ置クベシ

第七條 國道府縣ニ非ザル者少年教護院ヲ設置セントスルトキハ内務大臣ノ認

可ヲ受クベシ

第八條 地方長官左記各號ノ一ニ該當シ教護ノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ道府縣立教護院ニ入院セシムベシ

一 少年ニシテ適當ニ親權又ハ後見ヲ行フモノナキ者

二 少年ニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ノ出願アリタル者

三 認可教護院長ヨリ入院ノ申請アリタル者

地方長官ハ前項ノ外認可教護院其ノ他適當ナル施設若ハ家庭ニ委託シ又ハ少年保護員ノ監督ニ付スルコトヲ得

地方長官ハ第一項第二號ノ處分ヲ道府縣立教護院長ニ委任スルコトヲ得

第九條 内務大臣左記各號ノ一ニ該當シ教護ノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ國立教護院ニ入院セシムベシ

一 少年ノ情狀ニ依リ特ニ地方長官ヨリ入院ノ申請アリタル者

二 前號ニ該當セズト雖特殊少年ニシテ教護ノ必要アル者

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 内務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ教護院出院後ト雖當該

少年ニ對シ適當ノ保護監督ヲ行フベシ

第十一條 内務大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ前三條ノ處分ヲ解除シ又ハ變更スルコトヲ得

第十二條 認可教護院ハ親權者又ハ後見人ヨリ教護ヲ委嘱セラレタル少年ヲ入院セシムルコトヲ得

第十三條 入院者ノ在院期間ハ滿二十歳ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十四條 學校長、市町村長、少年保護員又ハ警察署長第八條第一項第一號ニ該當スル者アリト認ムルトキハ之ヲ地方長官ニ具申スベシ

第十五條 地方長官、警察署長又ハ市町村長必要アリト認ムルトキハ第八條第一項第一號ノ處分決定ニ至ル迄一時保護ヲ爲シ又ハ適當ナル施設若ハ家庭ニ委託シ之ヲ爲サシメ仍警察署長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ五日ヲ超エザル期間假ニ留置ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ警察署長ニ於テ行フ留置ハ他ノ收容者ト分離スベシ

第十六條 教護院長ハ在院者ニ對シ親權ヲ行フ但シ親權者又ハ後見人アル者ニ對スル財産管理權ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條ニ依リ變更處分ニ付セラレタル者ハ在院者ト看做ス

第十七條 内務大臣又ハ地方長官ハ本人又ハ扶養義務者ヨリ在院委託及一時保護ニ要シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ハ必要ニ應ジ納付義務者ノ居住地又ハ財産所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第一項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザル者アルトキハ國稅徵收法ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得

第十八條 第八條乃至第十一條ノ處分ヲ受ケタル者ノ親族又ハ後見人ハ入院後六箇月ヲ經過シタル場合其ノ處分ノ解除又ハ變更ヲ内務大臣又ハ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第十九條 第八條第一項第一號第二項第九條第十一條又ハ第十七條第一項第三項ノ處分ニ不服アル者及前條ノ出願ヲ許可セラレザル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 道府縣立教護院道府縣立鑑別所第十條ノ保護監督少年保護員一時保護及地方長官ノ爲シタル委託ニ關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔ト

ス

市町村長第十五條ノ一時保護ヲ爲シ又ハ爲サシメタルトキハ其ノ費用ハ市町村費ヲ以テ一時之ヲ立替フベシ

第二十一條 國庫ハ前條第一項道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ四分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

認可教護院ノ支出ニ付亦前項ヲ適用ス
國庫ハ道府縣立教護院職員ノ俸給ヲ負擔ス

第二十二條 教護院ノ用ニ供スル土地建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ爲ノ登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第二十三條 認可教護院ノ用ニ供スル土地建物ニ對シテハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシメタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 認可教護院本法若ハ本法ニ基キ發スル命令又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 教護院長ハ在院者ノ學力ヲ考查シ小學校ノ教科ヲ修了シタル者ト認定スルコトヲ得

前項ノ認定ヲ受ケタル者ハ他ノ法令ノ適用ニ關シテハ小學校ヲ卒業シタル者トス

ト看做ス

第二十六條 本法中市町村又ハ市町村費トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在テハ之ニ準ズベキモノトス

第二十七條 少年ノ教護處分ニ付セラレタル事項又ハ教護中ノ少年ノ行爲ニ關スル事項ハ其ノ敘述形式ノ如何ニ拘ラズ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ズ但シ教育ノ目的ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

感化法ハ之ヲ廢止ス

感化法第四條ノ規定ニ依リ代用感化院ハ第七條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

道府縣ハ本法施行ノ日ヨリ五年間前項ノ教護院ヲ道府縣立教護院ニ代用スルコトヲ得
本法施行ノ際現ニ國立感化院道府縣立感化院又ハ代用感化院ニ在院スル者ハ本法

ニ依リ入院セシメタル者ト看做ス

〔荒川五郎君登壇〕

○荒川五郎君 少年教護法提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、豫メ申上ゲテ置キマスガ、少年法トノ關係ニ於テ、何カ少年法ニ衝突スルトカ、或ハ少年法ノ範圍ヲ侵スヤウニ考ヘラレテ居ル人ガアルカニ承リマスガ、併シ少年法ハ刑事政策ニ基イタモノデアリマシテ、本法案ハ社會政策カラ出タモノデアリマス、社會政策ノ一種ノ變則ナ教育デアリマスノデ、兩者根本ノ相違ガアルノミナラズ、此法ノ改正ニ依ッテ、少年法モ相俟ッテ、各其目的ヲ達シ得ル便宜ガアルノデアリマスカラ、此點豫メ御了解ヲ願ウテ置キタイ、大要説明申上ゲレバ其趣意モ分ルコト、存ジマス

諸君、野火燒ケドモ竭キズノ語ノ通り、秋ノ野邊ノ枯草、燒イテモ其根ガアル以上ハ、春ヲ待ッテ芽ガ生エ、一層繁茂致シマス、現下ノ各方面ニ於ケル此社會的不安ヤ、害毒ヲ壓迫防止スル刑事政策、警察政治モ、固ヨリ其必要デアルコトハ申スマデモアリマセヌガ、併シ其由ッテ來ル根本ニ邁ッテ、其源泉ヲ清メルコトニ努力スルコトハ一層必要デアリ、又效果的デアルコトハ申スマデモアリマセヌ、所謂治療ノ「ボ

ンド」ヨリハ豫防ノ「オンス」デアリマス

年々國費地方費ノ増加ヲ來ス上ヨリモ、將タ一般國民ノ疑懼損害ノ點カラ考慮致シテモ、是等枯草ヲ燒ク社會表面ノ共事ニ專心スルヨリモ、此社會國家ノ永遠根本ノ方策ニ力ヲ入レルコトハ、政治上賢明ノ策ト思フノデアリマス、殊ニ此少年不良化ノ問題デアリマスガ、現時政府ノ正確ナル調査ガ出來テ居ナイ爲ニ、確實ナルコトハ申スコトガ出來マセヌケレドモ、今日全國ノ不良分子ハ年々非常ニ増加致シマシテ、其警察ノ眼ニ留ッテ居ル所謂不良化青年ト稱スル者モ、實ニ十萬以上ニ及ブト稱セラレテ居ルノデアリマス、而シテ此多數ノ中デ、今感化院ヤ、矯正院其他ノ保護團體デ收容教護シテ居ル者ハ、合計僅ニ四千餘名ニ止ッテ居ル、洵ニ微々タル狀態デアリマシテ、同ジク收容教護ヲ要スベキ大多數ノ少年ガ、街頭ニ放タレテ居ル有様ハ、諸君之ヲ如何ニ見ラル、カ、果シテ此儘ニ看過シテ宜イデアリマセウカ、此大切ナ我國ノ是等施設ガ、他ノ列強ニ比シテ極メテ貧弱デアリ、不備デアッテ、其害毒ヲ社會ニ流スコトノ甚シキハ、洵ニ遺憾憂慮ニ堪ヘナイ次第デアリマス
而シテ是等少年ノ不良化ノ原因ハ、或ハ

家庭、或ハ學校、又ハ社會、ソレ等ノ環境カラ造出サレタモノデアリマシテ、是等少年ノ惡化ヲ未然ニ防止シ、又其惡化セル者ノ教化遷善ノ仕事ハ、當ニ國家ノ重要ノ義務デナクテハナリマセヌ、然ルニ是等大多數ノ者ヲ放任シテ居ルバカリデハナイ、現ニ國家ハ小學兒童ニ對シテモ、小學兒童ノ不良行爲ガアレバ、停學ニ處分スルト云フ、コンナ矛盾シタ規定サヘモ、今日尙ホ存シテ居ルノデアリマシテ、ソレ等少年ノ救護矯正ニ對シテ、國家當然ノ責務デアルト云フ感ガ甚ダ乏シイヤウニ考ヘラル、ノデアリマス

抑、少年ノ不良化ヲ防止スル爲ニハ、家庭教育ヲ改善振興シ、或ハ學校外ノ救護監督ノ方法ヲ圖リ、又學校教育モ是ト共ニ革新シ、更ニ社會ノ改善ニモ力ヲ用ヒル等、諸種ノ問題ガアリマスケレドモ、特ニ少年ノ不良化ヲ其初期ニ發見シテ、其幼少ノ時代ニ於テ、早ク温情アル教育の方法ニ依テ之ヲ教化スルコトガ、最モ必要デアリ、得策デアルコトハ申スマデモアリマセヌ

現行ノ感化法ハ徒ニ歐米諸國ノ執、タヤウナ聲ニ倣ハナイデ、即チ主トシテ十四歲未滿ノ少年ヲ、刑事的處分ニ委スルコトナクシテ、之ヲ社會政策的ニ行政處分トシテ、

地方長官ニ依テ之ヲ感化院ニ送り、又救護スルニモ自由ヲ束縛シナイデ、極メテ教育的方法ニ依テ居ルノデアリマシテ、隨テ其成績モ良好デアリマス、所ガ此案ハ明治三十三年ノ制定デアリマシテ、爾來丁度三十三年間、其間僅ニ二度ノ改正ガアリマシタケレドモ、一度ハ單ナル施行期日ノ問題、又一度ハ少年法ヲ施行スルニ付テ、其關係上年齡ノ變更ヲ要スル爲メ、唯此微細ナル二箇條ノ改正ガアッタノミデ、何等根本的ノ改正ニハ觸レナカッタノデアリマス、併シ此三十三箇年ノ間ニ於テ、此不備ナル法律デアリマシテモ、幸ニ當事者ハ極メテ獻身的奉仕的ニ、不斷ノ努力ヲ拂ッテ、實際ノ成績ハ相當ニ舉テ居ルノデアリマスガ、何分此長日月ノ間ニ、社會一般ノ狀態ハ實ニ非常ナ變化ヲ致シテ居リマシテ、教育、思想其他ノ著シイ變革ヲモ來シテ居リマスニ拘ラズ、此感化法ガ依然舊態ノ儘デアルコトハ、此方面ノ大切ナ進展ヲ妨ゲテ居ルコトガ頗ル多イノデアリマス

今此感化法ヲ改正セネバナラヌト云フ、其諸點、簡條等ハ、一々申上ゲルコトハ差控ヘマスガ、是迄ハ少年ノ不良化ノ初期ニ發見シテ、之ニ對シテ適當ナ處置ヲ講ズルト云フ、大切ナコトガ顧ラレテ居ナカッタ

ノデアリマスカラ、是ガ規定ヲ加ヘ、又從來感化院内ニ收容スルニシマシテモ、如何ナル感化不能ノ低能デモ、變質者デモ御構ヒナシニ、十把一束のニ一樣ニ取扱ッテ、現代ノ進歩セル科學的ノ方法デ、心理學的醫學的ノ鑑別ヲ爲スト云フヤウナ方法ガ缺テ居タノデアリマス、是等ヲ斯様ナ、今日ノ進歩シタ科學的ノ方法デ分類收容スルヤウナ法ヲ立テルコトハ、感化ノ目的ヲ達スルニモ大事ナコト、思ヒマス、又院内ノ保護ノミニ限りマセヌ、其他ノ方面ニ於テモ、段々考慮ヲ要スルコトガアリマス、又院内救護ニ致シマシテモ、銀行法規デハ何等救護ノ本旨ヤ、其他ノ根本規定ガ更ニナイノデアリマスカラ、ソレガ勝手區々ニナッテ、其目的ハ貫徹セラレテ居ナイ憾モアリマスカラ、今ヤ多年ノ經驗ニ基イテ、是等根本規定ヲ定メル必要ガアルノデアリマス、又現在ノ收容力デハ、到底其目的ヲ達セラレマセヌカラ、從來何等規定ノ無キ私立或ハ市町村立ノ施設トカ、其他之ヲ獎勵助成スル方法ナドハ、當然國家ガ爲スベキ重大ナ事デアリマシテ、殊ニ此案ハ一種ノ變則的ナ教育デアリマス、謂ハ、家庭ト學校ト一緒ニシタヤウナモノデアリマシテ、隨テ其學校教育タル部面ニ於テハ、國民教育ノ再造ヲ以

テ任ジテ居ルベキモノデアリマシテ、隨テ之ニ對シテハ、小學校ト同様ノ權限ヲ認ムルノ必要ハ當然デアリマスカラ、之ニ或ハ卒業ヤ修業ノ認定權ヲ與ヘテ、サウシテ彼等收容者ニ、前途ニ普通ノ人間トシテ世ノ中ニ立チ得ルヤウナ道ヲ開イテヤル等ノコトハ、極メテ必要デアリマスル、其他此特殊困難ナ事業ニ當ル奉仕者ヲ、國庫待遇ヲスル等ヤ、又法文等ノ不明瞭ナ點ヤ、或ハ不適當ナ點モアリマスカラ、ソレ等モ併セテ改正シナケレバナラヌ大切ナコトデアリマス、仍テ私共ハ今回全國感化教育ノ實際化ニ付テ、多年ノ體驗ニ基ク現行感化法ノ不備ヲ徵シテ其意見ヲ求メ、又一面ニ於テハ各方面ノ心理學者ヤ、又教育家、醫學者、法律家ト云フヤウナ各方面ノ公平ナル意見ヲモ聽取致シマシテ、慎重ナ考究ヲ遂ゲテ、茲ニ七十名ニ近キ多數ノ諸氏ト共ニ、多クノ御賛成ヲ得テ本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス

斯ク本案ハ社會政策的、一種特別ノ教育ヲ以テ國民ヲ生カスト云フ、極メテ國家重要ノ事業タルバカリデハアリマセヌ、經濟的ニ考察致シマシテモ、此少年ヲ、惡化ノ進行スル儘ニ放置シテ置キマスレバ、其結果多額ノ經費ヲ自然ニ要スルヤウニナルノ

デアリマシテ、ソレヲ感化可能ノ時代ニ於テ、多數之ヲ改心セシムルコトハ、即チ本案ノ最重要性ヲ有テ居ルモノデアリマス以上ノ如ク、國家トシテハ之ヲ教育上ヨリ見マシテモ、經濟上ヨリ見マシテモ、現行感化法ヲ改正シテ、初期ノ不良少年ヲ最も有効的ニ教護スル方面ニ大ニ力ヲ用ヒ、サウシテ現行感化法ヲ根本的ニ改正シタイト企テ次第デアリマス、幸ニ此案ガ成立致セバ、即チ此案ト唇齒輔車ノ關係ニアルト言フテモ宜イ少年法ト、相一致協力シテ全般的ニ社會ノ廓清改善ノ目的ガ達セラ、所少クナイト思フノデアリマス

諸君、感化法ガ出來マシタ當時、今更ソレハ申上ゲルマデモナイガ、一少年ノ花村新六ト云フ者ガ、本郷春木町ノ一帯、千何軒ヲ燒イタノデアリマス、其事實ニ促進セラレテ、此感化法ハ出來タノデアリマス、又近ク一少年ガ、東京附近デ各地ヲ燒キ拂ヒタルモノハ、實ニ二百萬圓以上ニ上テ居ル、僅カ一人二人ノ教護收容ガ漏レタガ爲ニ、社會各方面ニ斯様ナル甚大ナ結果ヲ持來シタ事實ハ尠クナイノデアリマス、併シ此法案ノ眞ノ精神ハ、スル經濟的、功利的ノ考察ノミデ致スノデアリマセヌ、我が國家社會ノ前途ニ心ヲ寄セネバナリマセ

ヌ、吾々爲政家ト致シテハ、洵ニ一日モ等閑ニ附スルコトガ出來ナイコトデアルケレドモ、案外ニ世間カラ之ヲ顧ミラレヌ、大人ノ事ハ相當ノ注意ガ屆キマスガ、此芽生ヘニ摘ミ、卵ノ時ニ正スト云フ大事ナ此方面ノ事ガ顧ミラレナイト云フコトハ、洵ニ聖代ノ遺憾事ト謂ハナケレバナリマセヌ、何卒滿堂、國家ノ前途ニ心ヲ寄セラル、皆様ノ切ニ御贊助、是ガ成立ニ力ヲ御盡シ下サランコトヲ切ニ御願申上ゲル次第デアリマス(拍手)

○上田孝吉君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第七、傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者江藤源九郎君

第七 傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案(江藤源九郎君外三名提出)

第一讀會

傷痍軍人及戰公傷病死者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案

第一條 本法ニ於テ鐵道トハ國有鐵道

(連絡航路及自動車線ヲ含ム)、一般交通ノ用ニ供スル地方鐵道及軌道並南滿洲株式會社所屬ノ鐵道ヲ謂ヒ自動車トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ

定期ニ運行シテ旅客ヲ運送スル自動車ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ船舶トハ一般交通ノ用ニ供スル爲航路ヲ定メ定期ニ航行シテ旅客ヲ運送スル船舶ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第三條 傷痍軍人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ增加恩給受給者及一時賜金受給者中症狀重キ者ニ在リテハ無賃、症狀輕キ者ニ在リテハ旅客運賃ノ五割引ニテ鐵道及自動車ニ乗車スルコトヲ得

第四條 傷痍軍人ニシテ傷痍、疾病又ハ老齡等ノ爲他人ノ扶助ヲ要スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ附添人一名ヲ限り當人相當ノ無賃又ハ旅客運賃割引ニテ之ヲ同伴スルコトヲ得

第五條 戰公傷病死者ノ遺族ハ命令ノ定ムル所ニ依リ靖國神社大祭若ハ招魂祭

ニ參拜ノ爲又ハ遺骨ノ出迎受領等ノ爲旅行スルトキハ其ノ往復ニ限り無賃又ハ旅客運賃ノ五割引ニテ鐵道及自動車ニ乗車スルコトヲ得

第六條 第三條第四條及第五條ニ掲クル者船舶ニ依リ旅行スル場合ニ於テ本法ノ規定ニ依リ無賃ニテ乗車シ得ル旅行ニ相當スルトキハ旅客運賃ノ五割引、五割引運賃ニテ乗車シ得ル旅行ニ相當スルトキハ旅客運賃ノ二割引ニテ乗船スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○江藤源九郎君 議席ヨリ説明ヲ御許ヲ願ヒマス

○議長(秋田清君) 簡單デアレバ許可致シマス

○江藤源九郎君 本案ハ前議會ニ於キマシテ、滿場一致通過シタ案デアリマスカラ、説明ヲ省略シタイト思ヒマス、何卒滿場一致、傷痍軍人並ニ遺族ノ爲ニ御協賛アラント切ニ御願致シマス(拍手)

○上田孝吉君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第八乃至第十五ハ便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第八、行政執行法中改正法律案、日程第九、刑事訴訟法中改正法律案、日程第十、刑事訴訟法中改正法律案、日程第十一、身元保證ニ關スル法律案、日程第十二、利息制限法中改正法律案、日程第十三、嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案、日程第十四、計量士法案、日程第十五、度量衡法中改正法律案、右ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者一松定吉君

第八 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第九 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外一名提出) 第二讀會

第十一 身元保證ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十二 利息制限法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十三 嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十四 計量士法案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

第十五 度量衡法中改正法律案(一松定吉君外三名提出) 第一讀會

行政執行法中改正法律案

行政執行法中左ノ通改正ス

第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

釋放シタル被檢束者ヲ同一事由ヲ以テ再ヒ檢束スルコトヲ得ス

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第五十六條ノ二 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スル場合ニ於テ是等關係者ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ノ作成スル調書ハ速記ノ方法ニ依ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所書記ヲシテ速記ヲ翻譯セシメタル後之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシムヘシ

速記ノ爲ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トシ其ノ金額ヲ豫納セシムヘシ

前項ノ費用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

トシ其ノ金額ヲ豫納セシムヘシ

前項ノ費用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第三百三條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ豫審判事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限リ許可ヲ拒ムコトヲ得ス

身元保證ニ關スル法律案

第一條 引受人、保證人其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハス期限及金額ヲ定メスシテ被用者ノ行爲ニ因リ使用者ノ受ケタル損害ヲ賠償スルコトヲ約スル身元保證契約ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年間效力ヲ有ス但シ商工業見習者ノ身元保證ニ付テハ之ヲ五年トス

第二條 不相應ナル長キ期限又ハ契約ノ際ニ於ケル各當事者ノ資力及被用者ノ位置ニ相當セサル巨大ノ金額ハ之ヲ期限及金額ノ定ナキモノト看做ス

第三條 左ノ場合ニ於テ使用者ハ遲滯ナク身元保證人ニ通知スヘシ若此ノ通知ヲ怠リタルトキハ其ノ以後ニ於ケル被用者ノ行爲ニ付身元保證人ニ對スル賠償請求權ヲ失フ

一 被用者ニ身元保證人ノ責任トナル

ヘキ行爲アルコトヲ知リタルトキ

二 被用者ノ任務又ハ任地ヲ變更シ之カ爲身元保證人ノ責任ヲ加重シ又ハ其ノ監督ヲ困難ナラシムルトキ

第四條 身元保證人前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ將來ニ向テ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得若即時此ノ申入ヲ爲ササルトキハ解約ノ權利ヲ失フ

第五條 本法ノ規定ニ反スル契約ハ總テ無効トス

利息制限法中改正法律案

利息制限法中左ノ通改正ス

第二條中「裁判上無効ノモノトシ」ヲ「法律上無効ノモノトシ」ニ改ム

第四條中「裁判上無効ノ者トス」ヲ「法律上無効ノモノトス」ニ改ム

第六條 何等ノ名目ヲ以テスルヲ問ハス本法ノ趣旨ニ違反シ交付セル金錢ハ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得

第七條 常習トシテ他人ノ窮迫狀態思慮淺薄又ハ無經驗ニ乘シ利息、禮金、棒利、手数料其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス給付ニ比シテ著シク權衡ヲ失スル不當ノ利益ヲ得タル者ハ六月以下ノ懲役若ハ三千圓以下ノ罰金又ハ之ヲ併科ス

嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案

嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ハ之ヲ母ノ子ト稱ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

他ノ法令中私生子トアルハ之ヲ母ノ子トス

戸籍ノ記載ニシテ私生子トアルハ母ノ子ト訂正セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

計量士法案

計量士法

第一條 本法ニ於テ計量士ト稱スルハ度量衡器、計量器又ハ之ニ依ル計量若ハ商品量目ノ検査、調査、鑑定又ハ證明ヲ爲スヲ業務トスル者ヲ謂フ

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ計量士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 計量士試験ニ合格シタルコト
計量士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ計

量士試験委員ノ銓衡ニ依リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラズ計量士タル資格ヲ有ス

一 大學令ニ依ル大學ニ於テ物理學又ハ機械學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ一年以上上度量衡ニ關スル實務ニ従事シタル者

二 專門學校令ニ依ル專門學校ニ於テ機械學ヲ修メ之ヲ卒業シ三年以上上度量衡ニ關スル實務ニ従事シタル者

三 商工省ニ於ケル度量衡講習ヲ修了シ五年以上上度量衡ニ關スル實務ニ従事シタル者

四 七年以上專ラ度量衡器及計量器ノ検査又ハ取締ノ事務ニ従事シタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ計量士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者

又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 第十一條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者又ハ度量衡法ニ依リ百圓以上ノ罰金ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復權セサル者

第五條 計量士タラムトスル者ハ計量士名簿ニ登録ヲ受クヘシ

計量士ノ登録ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

計量士ハ其ノ業務ニ關シ計量士ノ稱號ヲ用ウヘシ

第六條 計量士ハ商工大臣ノ監督ニ屬ス

第七條 計量士タル資格ヲ有セスシテ計量士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ一年以上ノ懲役又ハ五百圓以上ノ罰金ニ處ス

第八條 計量士タル資格ヲ有スルモ其ノ登録ヲ受ケシテ計量士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ五十圓以上ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第九條 計量士本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲アリタルトキハ商工大臣ハ計量士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒ス

計量士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 計量士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 譴責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以內計量士ノ業務ノ停止

四 計量士ノ登録ノ抹消

前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ商工大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第十一條 計量士又ハ計量士タリシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知得シタル祕密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際引續キ一年以上上度量衡器、計量器又ハ之ニ依ル計量若ハ商品量目ノ検査、調査、鑑定又ハ證明ノ實務ニ従事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月以內ニ出願

シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計量士試験委員ノ銓衡ヲ經テ計量士タル資格ヲ有ス

度量衡法中改正法律案

度量衡法中左ノ通改正ス

第九條ノ二 計量士ノ行フ検査、調査ニ係ル使用中ノ度量衡器又ハ之ニ依ル計量若ハ商品量目ニ付テノ検定及取締ハ之ヲ省略ス

前項ノ検定及取締ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(一松定吉君登壇)

○一松定吉君 只今上程致サレマシタ日程第八乃至第十五ニ對シマシテ、順次提案ノ理由ヲ説明致シタイノデアリマス

日程第八ノ行政執行法中改正法律案、是ハ第一條第一項ノ次ニ「釋放シタル被檢束者ヲ同一事由ヲ以テ再ヒ檢束スルコトヲ得ス」ト云フコトヲ追加致シタイト云フ趣旨デアリマス、諸君モ御承知ノ如ク、警察官ガ無辜ノ民ヲ不法ニ拘束ヲ致シマシテ、人權蹂躪ヲ致シテ居リマスルコトガ、非常ニ多クアリマシタ爲ニ、私共ハ諸君ノ御協賛ヲ得マシテ、五十九議會ニ違警罪即決例改正

法律案ヲ提出致シタノデアリマシタ、幸

ニ貴衆兩院トモ滿場一致デ、是ガ通過致シマシテ、時ノ内務大臣安達謙藏氏ニ依リマシテ、是ガ實施セラレ、今日ニ於テハ其改正ノ結果、警察官ガ無辜ノ民ヲ不法ニ拘束スルト云フ弊害ハ取除カレタノデアリマス、然ルニ一面此法律ガ改正セラレマシタ爲ニ、警察官ガ此違警罪即決例ノ濫用ガ出來ナイヤウニナッタ結果、ドウ云フヤウニシテ人權ヲ蹂躪シテ居ルカト言ヒマスルト、此行政執行法ノ第一條ヲ以テ、頻ニ不當檢束ヲヤツテ居ルコトガ今日ノ實情デアリマス、ドウ云フコトヲヤツテ居ルカト言ヒマスルト、御承知ノ通りニ行政執行法ハ、保護檢束並ニ豫防檢束ノ二種類ガ認メラレテ居リマシテ、保護スル必要ノアル者、例ヘバ酒ニ酔拂ッテ街頭ヲ横行闊歩シテ居ルヤウナ者、或ハ自殺ヲスル虞ノアルヤウナ者ヲ保護スル必要ガアル時ニ、之ヲ保護檢束シ、若クハ暴行ヲ加ヘ、公安ヲ害スルヤウナ虞ノアル者ニ對シマシテ、豫防檢束ヲスルコトニナツテ居リマス、サウシテ此檢束ハ、翌日ノ日出前ニ之ヲ釋放シナケレバナラナイコトニナツテ居ルニ拘ラズ、サウ云フコトヲ致シマスルト、檢束ノ目的ヲ達シマセヌ爲ニ、警察官ガ日出前ニ之ヲ一旦警察ノ

門前ニ出シテ、又引戻シテ引戻シ檢束ヲヤ

ル、或ハサウ云フコトモセズシテ、繼續シテ二週間モ三週間モ檢束ヲ繼續スル、或ハ問題ガ大キクナリマスルト、隣リノ警察署ト話合ヒマシテ、自分ノ警察ノ門前ニ出ルノヲ待伏テ、之ヲ捕ヘテ他ノ警察ニ連行ヲシテ之ヲ檢束スル、即チ鹽廻シ檢束ト云フコトガ頻ニ行ハレテ居リマス、斯ウ云フヤウナコトハ、人權蹂躪ノ實ニ酷イコトデアリマシテ、國民ガ法ニ從ッテ、サウシテ自分等ハ法ノ保護ノ下ニ生活シテ居ルト云フ考ヲ持ッテ居ルモノガ、警察官ノ法ノ濫用ニ依リマシテ、斯ウ云フ下都合ノコトガ行ハレルコトニ依ッテ、吾々ノ權利ハ至ラザルナク蹂躪セラレ、ソレガ爲ニ危險思想ヲ起スト云フ者ガ非常ニ多イノデアリマス、私共ハ斯ウ云フヤウナコトノナカラシメル爲ニ、此行政執行法ノ第一條第一項ノ次ニ、同じ事由ヲ以テ再ヒ檢束スルコトヲ得ズト規定致シマシテ、此弊害ヲ取除キタイト云フ精神デ、此提案ヲ致シタノデアリマス、或ハ警察官等ガ違警罪即決例ガ改正セラレ、今又行政執行法ヲ改正セラレタ時ニハ、吾々ガ犯罪人ヲ檢舉スルコトガ全ク出來ナイヤウニナツテ、手モ足モ出ナイデハナイカト云フ非難ガアルコトヲ聞

イテ居リマスルガ、ソレハ所謂刑事訴訟

法ニハ、犯罪捜査ノ爲ニ強制處分ト云フコトヲ認メテ居リマスカラシテ、之ニ依ル必要モアリマセウ、又ソレデ足りナイ時ニハ、更ニ司法省、内務省等ハ、警察官ガ犯罪ノ嫌疑者ヲ調べルコトガ出來ルヤウナ法規ヲ制定致シマシテ、其法律ニ基イテ取調ヲ開始スルト云フコトニスレバ、人權蹂躪ノ聲ハ無クナルノデアリマスルノミナラズ、國民モ其法規ニ基イテ拘束セラレルコトニ何等異存ハナイノデアリマスルカラシテ、左様ニ取計ヘバ今ノ弊害ハ除去スルコトガ出來ルノデアリマス、故ニ斯ウ云フヤウニ之ヲ改正致シマシテ、司法警察官ノ威信ヲ高メ、サウシテ危險思想ノ醸成ヲナカラシメ、國體ノ基礎ヲ危クスルヤウナコトノ無カラシメルニハ、此法案ノ改正ト云フコトハ最モ必要デアルト考ヘテ居ルノデアリマスカラシテ、ドウゾ御賛成アランコトヲ御願シテ已ミマセヌ

第九ノ日程ノ 刑事訴訟法中改正法律案

ハ、御覽ノ通りニ今迄ノ刑事訴訟法ニ於ケル證據蒐集ノ方法ハ、警察官若クハ檢事、若クハ豫審判事ガ、犯罪人若クハ被疑者ヲ調べマスル時ニ、其調べマスル所ノ經過ヲ一々調書ニ載セナケレバナラナイニ拘ラズ、

被告ニ不利ナ所バカリ調書ニ載セラレマシテ、被告ニ利益ナ所ハ調書ニ載セラレナイコトガ多イノデアリマス、ソレバカリデハナイ、被告ハ自分ガ言ハントシタコトガ往々間違ヘラレテ調書ノ上ニ現ハレ、淡イト言フコトガ濃イト現ハレ、紅ト言ウタコガ赤ト現レタコトガアリマシテ、法廷ニ持出サレタ時ニ、自分ハサウ云フ供述ヲシタコトハナイト言ウテ、調書ノ信憑力ニ疑ヲ持タセルヤウナ事實ガ今日多イノデアリマス、ソレガ爲ニ非常ニ公判廷ニ波瀾ヲ捲起スコトガアルバカリデハアリマセヌ、自分ノ言ハナイコトヲ書カレテ居ルト云フコトニ憤リヲ發シマシテ、神聖ナルベキ裁判ニ、國民ガ喜ンデ服シナイヤウナコトガ往々ニシテアルノデアリマス、是デハ裁判ノ威信ヲ害スルバカリデハアリマセヌ、無辜ノ民ガ往々ニシテ罰セラレルヤウナコトガアリマシタナラバ、聖代ノ不祥事はヨリ甚シキハナシト考ヘルノデアリマス、此意味ニ於キマシテ、所謂取調ヲ致シマスル時ニ、取調ラレテ居リマスル者ガ、今私ノ申上ゲルコトヲ速記ノ方法ニ依テ速記シテ、戴キタイト云フコトヲ申出デマスレバ、取調官ハ書記ニ命ジテ、速記ノ方法ニ依テ調べる者ト調ベラレル者トノ訊問答辯ヲ調書

ニ現ハシマシテ、之ヲ裁判上證據書類ト致シマスルナラバ、私ノ言ハナイコトヲ調書ニ書カレタノデアリマスツカ、私ノ思フコト、違テ居リマス云フヤウナコトノ申立ヲ、防グコトガ出來ルバカリデハアリマセヌ、本當ニ調書ニ信憑力ヲ持ツコトニナルノデアリマスルカラ、之ニ依テ裁判ノ威信ヲ高メルコトガ出來ルノデアリマス、此意味ニ於テ本案ヲ提出シタノデアリマスルガ、此速記ノ方法ヲ用ヒルコトニナリマスルト、裁判所ノ書記ニ速記ヲ教ヘナケレバナラス、又裁判所ノ書記ノ數ヲ殖ヤサナケレバナラス、ソレデハ財政困難ノ今日ニ於テ困ルデハナイカト云フ非難モアリマスルケレドモ、其點ハ其速記ヲ要求スル者ヲシテ費用ヲ一時負擔セシメテ置クト云フコトニ致シマスレバ、國帑ヲ多ク費スト云フコトニナライノデアリマスルカラ、決シテ是ハ實施不可能ノモノデハナイト考ヘテ居リマスルカラ、是非此點ニモ御賛成アラシコトヲ御願シテ已ミマセヌ

ト言ヒマスルト、檢事、被告人、辯護人ハ、豫審中何時デモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトガ出來ルト云フコトデアリマス、檢事ハ豫審ノ進行中ニ、其豫審記錄竝ニ證據物ヲ閱覽スル權能ヲ刑事訴訟法ノ三百三條ノ第三項ニ認メラレテ居リマス、又辯護人モ豫審判事ノ許ヲ得テ、書類及證據物件ヲ見ルコトガ出來ルトアルノデアリマス、ソコデ被告人ニ對シマシテ、辯護士ガ附イタ時ニ、其辯護士ガ豫審判事ニ對シテ、アノ調書ヲ見セテ下サイ、此證據物件ヲ見セテ下サイト請求シタ時ニ、今日ノ實際ハ豫審判事ハ全ク辯護士ニ對シマシテ記錄ノ閱覽ヲ許シマセヌ、證據物件ノ調査ヲ許シマセヌ、ソレガ爲ニ折角刑事訴訟法ニ、豫審ニ於テ辯護士ヲ附ケルコトガ出來ルト云フ立派ナ法規ヲ設ケテ置キナガラ、其規定ハ空文ニナッテ居ルノデアリマス、ソレデハ辯護權ノ蹂躪ト云フコトニナル結果被告ノ權利ヲ十分ニ擁護スルコトガ出來マセヌ、是ハ在野ノ法曹竝ニ一度サウ云フ裁判ニ掛リマシタ人々ハ、非常ニ苦痛ヲ致シテ居ル所デアリマスカラ、但書ヲ加ヘテ、豫審ノ進行ヲ妨ゲナイ時ニハ、豫審判事ハ其調書竝ニ證據物件ヲ辯護士ニ見セルコトノ義務ヲ負ハセルト云フノガ、本法ノ提案

趣旨デアリマス、ドウゾ御賛成ヲ御願シテ已ミマセヌ

第十一ノ日程ハ、身元保證ニ關スル件デアリマシテ、御承知ノ如ク身元引受人、或ハ身元保證人ト云フモノハ、特別ニ何箇年間オ前サンノ身元ヲ引受ケルゾ、或ハオ前サンニ不都合ナコトガアレバ幾ラノ金額ダケオ前ノヤッタコトニ責任ヲ持ツト云フヤウナ、特別ノ約束ヲ致シテ居リマスル時ハ問題ハ起リマセヌ、サウ云フ特別ノ約束ナイ時ニ、身元保證ヲシタリ、或ハ引受ヲシタリ致シマシタ結果、五年經テ、十年經テ、二十年經テ忘レテシマッテ、丁稚ニ入ル時身元保證ヲシタ者ガ、既ニ白髮ノ支配人ニナッヤウナ時ニ、是ガ何等カノ理由デ金ノ使込ミヲシタト云フヤウナ時ニ、何十年カノ後ニ、オ前ハ豫テ身元引受ヲシタカラ、其損害ノ保證ノ責任任ジナケレバナラヌト云フヤウナコトガアルバカリデナク、其引受ヲ致シマシタ者ノ相續人ガ、自分ノ先代ガ保證ヲシタト云フコトノ爲ニ、子ヤ孫ニ至ルマデ其責任ヲ負ハナケレバナラナイト云フ如キコトガ、今日裁判上實際ニ認メラレテ居ルノデアリマス、斯クテハ其身元引受、身元保證ヲ致シマシタ者ノ責任ガ、餘リニ重且ツ大デアルト私共ハ考ヘルノデアリマ

ス、故ニ身元保證契約ハ、其契約ヲシタ時カラ二年間経テバ時効ニ依テ消滅スル、サウシテ其責任ヲ解除スルト云フコトガ最も合理的デアルト考ヘルデアリマス、但シ商賣人ノ爲ニ、其丁稚ダトカ、使用人ヲ推薦シテ、身元引受ナドヲシテ居ル時ニ、二年間デハ餘リニ短イト考ヘマスカラシテ、サウ云フ時ハ時効期間ヲ五箇年ト、斯様ニ定メテ、其責任ヲ解除セシムルコトガ最も必要デアラウト云フ考デ、此法案ヲ提出致シタノデアリマス、此法案ハ第四十四議會並ニ第五十九議會ニ於テ衆議院ヲ通過致シマシテ、貴族院ニ於テ審議未了ニ終ラタ案デアリマス、是非ハ皆様ノ御力ニ依ッテ、通過サセテ戴キタイト考ヘテ居リマス

日程第十二ハ、利息制限法中改正法律案デアリマシテ、是ハ明治十年九月十一日布告第六十六號ト云フ、餘程以前ニ行ハレタ法律デアリマシテ、此法律ニ依リマスルト、百圓未満ノモノハ一割五分、百圓以上千圓未満ハ一割二分、千圓以上一萬圓ノ利息ヲ取ルコトガ出來ル、ソレ以上ノ利息ノ約束ヲシテモ、裁判ニ訴ヘタ時ニハソレハ無効ニナルノダト云フコトガ、此立法ノ趣旨ニナッテ居リマス、但シ裁判ニ訴ヘズ、御互同志カ約束ノ下ニヤッタ時ハ、幾ラ高い利息ヲ定

メテモ、ソレハ差支ナイゾト云フコトニナッテ居ルノデアリマスカラシテ、所謂高利貸ト云フヤウナ者ガ、此拔駈ケノ功名トカ、或ハ彼等ガ勝手ニ前利、棒利、手数料、口錢ト云フヤウナ名前ヲ付ケマシテ、例ヘバ千圓貸ス時ニ僅ニ五百圓カ四百圓貸シテ、ソレ以外ノ金ハ色々ノ名稱ノ下ニ天引ヲシテ、サウシテ負債ニ苦ンデ居ル人ヲ一層苦メルト云フヤウナ實情ニアルコトハ諸君御承知ノ通りデアリマス、故ニ斯ウ云フヤウナ弊害ヲ防イデ、サウシテ庶民階級ノ人ヲ保護シ、負債ニ苦ンデ居ル人ニ更生ノ途ヲ與ヘシムルニハ、此利息制限法中ノ制限額ヲ超過シタ時ニハ、裁判上無効ニ非ズシテ、法律上當然之ヲ無効ト致シマシテ、サウシテ裁判所ニ請求シテ、既ニ色々ノ名義ノ下ニ支拂ッテ居ル金デモ、取戻スコトノ出來ルト云フヤウニ致スコトハ、社會政策ノ上カラシテモ最も必要ナコトデアリマセウシ、彼ノ六十ニ議會ニ於キマシテ、金錢債務臨時調停法ガ皆様ノ御協賛ノ下ニ實施セラレテ、此庶民階級ノ負債ニ苦ンデ居ル人ヲ救助スルコトノ、社會政策的立法ノ出來タコト、相俟ッテ、此利息制限法ノ制定ハ、最も必要デアラウト思フノデアリマス、唯効ニ注意シナケレバナリマセスコトハ、彼ノ質屋營業ト

云フヤウナ、僅カ十圓以下若クハ二十圓三十圓以下ノ金ヲ、緊急ニ之ヲ調達シナケレバナラヌト云フヤウナ必要ノアル場合ニ、此利息制限法ニ支配セシムルト云フコトハ、多少ノ問題ガ殘ラウト思ヒマスカラ、斯ウ云フ點ニ對シテハ更ニ特別法デモ制定シテ、之ヲ保護スル必要ガアルノデハナカラウカ、是等ノ點ハ更ニ委員會ニ於テ十分慎重審議ヲ御願致シタイト、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス

ソレカラ第十三日程ハ、嫡出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案デアリマシテ、名前ハ長ウゴザイマスガ、詰リ私生子ト云フ名前ヲ廢スルト云フ法律案デアリマス、承ル所ニ依リマスルト、私生子ノ數ガ我が日本ノ所謂九千万人モアリマス中デ殆ンド百万ヲ突破シテ、私生子ト云フ者ノアルト云フコトヲ私共ハ聞イテ居ルノデアリマス、其生レタ子ガ兩親ノ不品行ニ因リテ生レテ、サウシテ生レ出テ置イテ、自分ノ肩書ニハ私カニ生レタ子ト云フ肩書ヲ、生レテカラ墓ニ入ルマデ、終生之ヲ負擔サセラレル、サウシテ世ノ中ノ日蔭者ノ取扱ヲ受ケ、世人カラ指サレ、嗤ハレルヤウナ立場ニ置カレテ居リマス爲ニ、斯ウ云フヤウナ人々ガ、非常ニ自分ノ肩書ヲ恥ヂ、世

間ニ對シテ正々堂々ト行動スベキコトニモ、色々ナ障礙ヲ來シ、不良少年少女ト化シ、危險思想ヲ醸成スルニ至ルコトガ非常ニ多イノデアリマス、先刻荒川君ノ説明致サレマシタ、此少年教護法ト云フヤウナコトノ支配ヲ受ケマス者ノ中ニモ、此私生子ト云フ者ガ非常ニ數ガ多イノデアリマス、私共ハ斯ウ云フヤウナ憐レナル國民ニ對シマシテ、サウ云フ妙ナ考ヲ有タセナイヤウニ、極ク暢ンビリトシタ成育ガ出來、國家ノ爲ニ奉公ノ誠ヲ盡スコトノ出來ルヤウニスル爲ニハ、唯此私生子ト云フ名稱ヲ改メサヘスレバ、彼等ハサウ云フヤウナ弊害ニ陷ラスデ之ヲ救フコトガ出來ル、ソレニ付テ色々考究ヲ致シタノデアリマスルガ、母ノ子ト云フコトハワカシイケレドモ、是ハ戸籍ノ記載等ニサウ云フヤウニ書ケバ宜イノデアリマシテ、例ヘバ「ウメ」ト云フ女ガアレバ、其「ウメ」長女「ハナ」「ウメ」長男「二郎」ト云フヤウナ風ニ認メマスレバ、弊害ハナイト思フノデアリマスルカラ、之ヲ一ツ改メテ、サウシテ、精神上ノ苦痛、危險思想ノ惹起ヲ防ギ、犯罪ヲ敢行スル者ヲ少ナカラシメルト云フヤウニ致シタイハデアリマス、私共ガ實際法律ヲ取扱フテ居リマスル時ニ常ニ感ジマスルコトハ、自分ノ子

ヤ、若クハ自分ノ不品行ノ爲ニ、斯ウ云フヤウナ子供ヲ生マセルコトヲ恥ヂ、生レタ子供ヲ自分ノ兩親ノ子ノ如クニシ、若クハ他人ノ子トシテ生レタヤウニ、虚偽ノ戸籍届ヲスルコトガ多イノデアリマス、是ガ爲ニ刑法上ノ犯罪ヲ爲スト云フコトニナルノデアリマシテ、斯ウ云フヤウナコトヲ行フコトノ出来ナイヤウニスル一ツノ方法トシテモ、今ノ提案ハ目的ヲ達スルノニ都合ガ好イヤウニ考ヘルノデアリマスルカラ、是非一ツ御賛成ヲ御願致シタイノデアリマス

第十四日程ノ計量法士法、是ハ度量衡器、計量器、又ハ之ニ依ル計量若ハ商品量目ノ検査、調査、鑑定、證明等ヲ業トスル者ヲ計量士ト名ヲ付ケマシテ、是等ノ者ニ責任ヲ持タセテ、斯ウ云フ計量器ノ検査、調査、鑑定、證明等ヲサセタイト云フノガ立法ノ趣旨デアリマス、之ニ是非御賛成ヲ御願ヒシテ已ミマセヌ

ソレカラ度量衡法中改正法律案ハ、既ニ計量士ト云フ計量ニ關スル責任者ガ、國家試験ヲ經テ採用セラレタナラバ、斯ウ云フ者ガ其計量器ノ検査、調査ト云フヤウナコトヲ致シタ時ニハ、計量士以外ニ、國家ガ斯ウ云フ物ニ對シテ調査スルツカ、取締ヲスルトカ云フコトヲ省略スルコトノ出来ル

ト云フ意味ニ於テ、度量衡法中ノ一部ヲ改正シタイト云フノガ本案提出ノ理由デアリマス、之ニ對シマシテハ、全國ノ此計量ニ關シマスル數万ノ人ガ、請願書ヲ當議會ニ提出致シテアルノデゴザイマスカラ、是ハ請願委員諸君ニ於カレテモ、此實情ニハ十分御了解ヲ得ラレテ居ルト思フノデアリマス、ドウゾ是等ノ諸法律案ニ對シマシテ慎重審議ノ上是非御賛成ノアランコトヲ御願致シマシテ、提案理由ノ説明ヲ了ル次第デアリマス(拍手)

○上田孝吉君 日程第八乃至第十五ノ八案ヲ一括シテ、議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——此際御報告スベキコトガアリマス、書記官ヲシテ報告セシメマス

〔書記官朗讀〕
一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
(第一號)昭和七年度歳入歳出總豫算追加案

(特第一號)昭和七年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

朝鮮事業公債法中改正法律案
樺太事業公債法中改正法律案

(以上二月二十八日提出)

○上田孝吉君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ハ可決セラレマシタ、次會ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス
午後二時十八分散會

衆議院議事速記録第四號中正誤

頁 段 行 誤 正
三九 一 一二 公債發行ニ關スル建議案 公債發行ニ關スル法律案

衆議院議事速記録第七號中正誤

頁 段 行 誤 正
一〇 三一 五 午後一時開會 午後一時開會
同 四 一六 蠶絲部長 蠶絲局長

衆議院議事速記録第七號中

頁 段 行
一〇 四 三 九 「政友會ト」ノ以下二字削除
同 二 四 八 「所謂」ノ以下七字削除
一 一 三 一 八 武智勇記君 武知勇記君
同 九 武智勇記君 武知勇記君

官報號外

昭和八年一月二十九日

衆議院議事速記録第八號

一三四